

Title	中国の洪水神話における兄妹婚神話の位置付けと構造分析
Sub Title	The position of the brother-sister-marriage myth in Chinese flood myth and an analysis of its structure
Author	井上, 順子(Inoue, Junko)
Publisher	三田史学会
Publication year	2015
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.85, No.1/2/3 (2015. 7) ,p.51(51)- 75(75)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	文学部創設125年記念号(第2分冊) 論文 東洋史
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-20150700-0051

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

中国の洪水神話における兄妹婚神話の位置付けと構造分析

井上 順子

洪水神話は広く世界に分布するが、^①「同胞配偶型洪水神話」はすでに芮逸夫^②、聞一多^③、李芹^④、ヴァルク等^⑤が指摘したように、西はインド中部から東南アジア、中国南部、台湾、沖縄に至るまで広く分布し、この地域の一大特徴をなすものである。

概略は、

1. 洪水が起こり、人類が滅亡する
2. 兄妹（あるいは姉弟）だけが生き残る
3. 兄妹（あるいは姉弟）が結婚して人類を伝えるという基本構造をとる。

さらに内容を詳しく検討するために、以下の八つの構成要素に分けた。^⑥

- ① 洪水の原因
- ② 洪水の予告と免れる手段の教示

- ③ 避水具
- ④ 生き残った者
- ⑤ 同胞婚の忌避
- ⑥ 同胞婚の結果
- ⑦ 切り刻むモチーフ
- ⑧ 人類起源

これらの八要素を要素別に分析し、八要素の結合の仕方によって、どのような特徴がみられるか、言語系統別、あるいは生業形態との関わりからどのようなまとまりがみられるのか、兄妹婚神話は中国の洪水神話の中でどのような位置付けにあるかを考えてみたい。但し、ここでは中国の洪水神話のうちの治水神話は除くことにする。

現在、中国は漢族と五五の少数民族から成るとされるが、言語系統、生業形態との関わりから神話をみるため

に、村松一弥氏の中国諸民族表を参考にして言語体系と文化圏とを次のようにまとめた。

I 北部遊牧民文化圏 (アルタイ語系 ツングース語族、蒙古語族、チュルク語族、インド・ヨーロッパ語族の諸民族)

II 西部中部高原農牧民文化圏 (漢・チベット語系

チベット・ビルマ語族チベット語支の諸民族)

III 南部山地居住農牧民文化圏 (漢・チベット語系

チベット・ビルマ語族イ語支の諸民族)

IV 南部山地焼畑耕作民文化圏 (漢・チベット語系

ミャオ・ヤオ語族の諸民族)

V 南部河谷居住水稻墾耕民文化圏 (漢・チベット語系

チワン・トン語族の諸民族)

VI 南部狩獵栽培民文化圏 (南アジア語系 モン・ク

メール語族の諸民族)

VII 東部平原農耕民文化圏 (漢・チベット語系 漢語

族の漢族)

Iに属するのは、アルタイ語系ツングース語族、蒙古語族、チュルク語族、インド・ヨーロッパ語族等である。

〔蒙古族 (農・牧) は蒙古語支〕

IIに属するのは、「西部高原農牧民」である蔵語支の蔵族 (農・牧)、羌族 (農・牧)〔羌語支?〕、普米族 (農・牧)〔羌語支?〕、独龙族 (獵・農)〔語支未定? 景頗語支?〕、怒族 (農)〔語支未定、怒語支?〕等である。

IIIに属するのは、彝語支の彝族 (農・牧)、傈僳族 (獵・農・牧)、纳西族 (農・牧)、哈尼族 (農・水稻及び茶栽培)、拉祜族 (獵及び農・水稻)、阿昌族 (農・工)、白族 (農・水稻)〔白語支〕、土家族 (農・水稻)〔語支未定?〕、景頗族 (獵・農)〔景頗語支〕、基諾族 (農・茶)〔語支未定〕等である。

IVに属するのは、苗語支の苗族 (農・焼畑耕作、現在 は水稻耕作に移行しつつある)、仡佬族 (農)〔語族未定?〕、瑤語支の瑤族、畬族と、京族 (漁・農)〔語系未定〕等である。

Vに属するのは、壮侗語族壮傣語支の壮族 (農・水稻墾耕)、布依族 (農・水稻墾耕)、傣族 (農・水稻墾耕)と、侗水語支の侗族 (農・水稻墾耕及び林業)、水族 (農・水稻墾耕)、毛南族 (農・水稻墾耕)、仡佬族 (農・水稻

犁耕）、黎族（農）〔黎語支？↓現在は漢・チベット語化しているが、南アジア語系、南島語系的でもある〕等である。

VIに属するのは、南アジア語系モン・クメール語族の佤^ワ德昂語支の佤族、德昂族、布朗族等である。現在は水稻耕作民化しつつあるが、非常に古くから西南中国地方に住む狩猟栽培民族である。

VIIは漢族。

一

まず、数量的に多くまとまりを持つものに、闘争型洪水神話と耕地復元モチーフを持つ予告・懲罰型の洪水神話を挙げることができる。

闘争型洪水神話は、苗、瑤語族（苗族、瑤族、畲族）と壮侗語族（壮族、侗族、水族、毛南族、仫佬族）、土

家族の間に伝わり、概要は次の様なものである。

「天上の雷公と地上の神人が争う。雷公は神人に報復するために地上に降りて来ようとするが、神人はこれを察知し、屋根の上によく滑る植物（青苔、水草、水藻、木の皮、皮を剥いだ木、芭蕉の葉、等）を敷き詰め、滑り落ちてきたところを捕獲する。捕らえられた雷公は鉄籠（鉄倉、穀倉、泥倉、籬、石房、等）に閉じ込められる（あるいは柱に縛り付けられる）。神人は雷公を塩漬けにするために、塩や甕を買いに市場へ出かけるが、二人の子供（兄妹二人）に『雷公に水（火、火と水、等）を決して与えないように』と言に残す。雷公は兄妹を騙し（あるいは兄妹の同情を買って）、水（火）等を得て、逃げ出す。去り際に、雷公は兄妹に『洪水が起ったら避水具（葫蘆、南瓜、金瓜、等）の中に潜りこんで逃げるように』と教える。やがて、天まで溢れる大洪水が起こり、兄妹以外の人間は溺死する。洪水後、兄妹は配偶者を求めて放浪の旅に出る。途中に出遇った亀や竹が、『人類を残すためには兄妹で結婚するしかない』と助言する。兄妹は不快に思い、亀を踏み潰し、竹を切るが、亀や竹は再生する〔竹の節、亀の甲羅の由来譚〕。次に、神意を問うための占いをする。山の上から石磨^{うす}の上下を

転がし麓で合わさったら、二人の焚いた煙が絡まって一つになったら、逃げる妹を兄が追いかけて捕まえられたら……などである。占いの条件が満たされ、兄妹は人類を残すために結婚する。しかし、結婚後に生まれたものは、無定形で血だらけの肉塊であった。これを切り刻んで四方に撒くと人間に変わり、以後、地上には再び人類が繁栄するようになった」とするものである。

もう一つ数量的に多くまとまりのみられる耕地復元モチーフを持つ予告・懲罰型洪水神話の概要を述べる。この話は彝語支(彝族、納西族、納西族摩梭人、拉祜族、傈僳族)と、西部方言区の苗族(花苗、川苗、鴉雀苗、等)、藏族、普米族、仡佬族、蒙古族等の間に伝わっている。

「昔、兄弟二人(三人、四人、…複数人)が土地を耕していたが、翌日には耕す以前の状態に戻っている。こうした日が何日も続くので、兄弟は不思議に思い、見張っていると、夜中に一人の老人(老婆、野猪、熊、青蛙等)がやって来て、耕した土地を元通りにしていた。兄は殺そう(殴ろう)とするが、弟は理由を聞くと言って老人を助ける。老人は『もうすぐ洪水が起こ

るのでから土地を耕す必要はない』と告げる。兄弟は驚き、洪水から逃れる手段を尋ねる。老人は、兄には金属製の(金、銀、銅、錫、鉄、等)の、弟には木製の(箱、桶、櫃、船、房、甕、寝台、等)の避水具を造るようにと教える。洪水が起こると、金属製の避水具は沈み、木製の避水具に乗った弟(末弟、妹も一緒の場合は末弟と妹の二人)が生き残る。

末弟だけ一人が生き残った場合は、天女(仙女)と結婚する。結婚に至るまでには、難題婚モチーフが語られる。天女の助言(あるいは助けた動物達の助力)を得て天女の父から与えられた難題を解決して天女と結婚するが、生まれた子供は啞であった。ある日、子供達は竹の炸裂音を聞き驚いて、異なった言語で発声し、それぞれの地方へ行つて、それぞれの民族の始祖となった」とするものである。

また、兄妹二人が生き残った場合は、⑤同胞婚の忌避、⑥同胞婚の結果、⑦切り刻むモチーフ、⑧人類起源は、闘争型の場合とほぼ同じなので重複を避けるため省略する。

二

次に、八つの構成要素の分析を試みる。

1. 構成要素①洪水の原因

洪水の原因は多々あるが、以下のようにまとめてみた。

(A) 闘争型

この形式に特徴的なのは、宇宙的な闘争する対があることである。

(i) 雷公との闘争 (苗族、瑤族、畬族、毛南族、水族、侗族、壮族、布依族、仫佬族、土家族、等)

苗族、侗族、水族、壮族では、雷公と闘争相手は兄弟関係を持つとされる。兄弟の対立はある原理における二元論的対立を表わす。ここでは雷公を捕獲するまでの過程、雷公が逃げ出すまでの話かなりの比重で語られる。闘争の結果、敗れた雷公が報復として洪水を引き起こすというものである。

・苗族・「天上に住むA₁E₀とA₂N₁E₀の二兄弟が財産の分与をめぐる争い、雷公が洪水を起こす」⁽⁸⁾、「雷公と姜

央の二兄弟が分家する。姜央は雷公から借りた牛を返さずに食べてしまい、雷公を愚弄する。怒った雷公が洪水を起し報復する」⁽⁹⁾、「雷公、虎、龍、召裔自老（人）が武芸比べをする。人が火を熾し、雷公は翼を焼かれたため、仇討ちをしようと洪水を起す」⁽¹⁰⁾

・瑤族・「雷王は天上で雨水を管理し、大聖は地上で農作物を植えていた。大聖が雷王に風雨が順調であるよう求めると、雷王は大聖に収穫の半分を要求する。大聖は雷王に、上下のどちらが欲しいか問う。雷王が下と言うとシコクビエ（穀物）を、上と言うと芋を、上と下と言うとトウモロコシを植える。…大聖は屋根に青苔を敷き、雷王が足を滑らせたところを捕らえ、穀倉に閉じ込める」⁽¹¹⁾

・畬族・「盤石郎が雷神を捕らえ石鎖で繋ぐ。…逃げ出した雷神が洪水を起す」⁽¹²⁾

・毛南族・「大地を管理している神土地と天上を管理している雷公が戦争をする。雷公は捕らえられ、鎖で繋がれ石柱に縛り付けられる」⁽¹³⁾

・水族・「人、龍、雷、虎は兄弟であったが、内紛が起る。仙人は技比べの勝者に大地を治めさせることにする。火を用いた人が勝つが、雷神は恨みに思い、天河の

水を開けて、洪水を起こす⁽¹⁴⁾

・侗族…「松恩と松桑の一二人の子(虎、熊、蛇、龍、雷、…丈良、丈美)が誰を長男にするかで力比べをする。丈良、丈美は火を使う。火傷を負わされた報復として、

雷婆が洪水を起こす⁽¹⁵⁾」

・壮族…「龍王、霸王、雷王は三兄弟であった。壮族の英雄布伯^ブは雷王と雨水をめぐって闘争し、雷公を捕らえ、穀倉に閉じ込める⁽¹⁶⁾」

・布依族…「雷公が寝てしまったため、地上が旱魃になる。怒った布儼^ブは雷公を地上に連れてきて、山寨門に縛り付けて罰する⁽¹⁷⁾」

・佤族…「大旱魃が三年続いたことから、李季秋の長男と次男が怒って、竹竿で雷公の胸を突き、転がり落ちたところを捕らえて穀倉に閉じ込める⁽¹⁸⁾」

・土家族…「五人の兄弟が母親の病気を治すには雷公の肉が必要とし、雷公を捕らえ鉄籠に閉じ込める。逃げ出した雷公が報復として洪水を起こす⁽¹⁹⁾」

・俚家人^{カチア}「貴州省黄平县に住む。苗・瑤語支に近い」…「六人の子(恩、雷、虎、龍、蛇、媚)がいて、恩は母親と妹の媚と一緒に暮らす。恩は雷から借りた牛を食べてしまう。怒った雷は恩を殴ろうとするが、恩が路上に

置いた木の皮で滑って鉄倉に閉じ込められてしまう。…火を熾して逃げ、洪水を起こす⁽²⁰⁾」等のように語られる。

(ii) その他の闘争

・景頗族…「魔鬼と人類の始祖寧冠娃^{ニシグアワ}が闘い、魔鬼が洪水を起こす⁽²¹⁾」

・黎族…「凶惡な蟹の精と雷公が闘い、蟹の精の腹の黄色い水が洪水になった⁽²²⁾」

・弥勒県の彝族…「天龍と地龍が争い、一回目は地龍が勝ち旱魃が起り、二回目は天龍が勝ち九年間雨が降り止まず、洪水が起こつた⁽²³⁾」等。

(B) 懲罰型

この形式の本質的な要素は、洪水以前に人類が存在していたこと、至高神が洪水の起因者であり、道德的な動機付けがあることである。洪水の原因を語るとき、どの民族にも語られて数も最も多い。

(i) 至高神が邪惡な人類を滅ぼし、この時代の人類を取り替えるために洪水を起こす。(彝族、哈尼族、傣族、

独龍族、怒族、基諾族、等)

・彝族…「独眼の代の人が牛馬にも劣るので、陳古子(宇宙万物を主宰する天神)がこの代の人を滅ぼす」、

「直眼(縦目)の代の人が墮落し、五穀を粗末にしたので、格滋天神がこの代の人種を取り替える」

・哈尼族…「第三代喀坡の時代、天神(摩咪)は地上の人間が直眼で膝頭が逆向きで鴨の嘴の怪物であったため滅ぼす」

・傣族…「第二代の人は、不誠実で、顔が二つ、三つある者や、縦目の者、横目の者、…等である上に、近親相姦(父と娘、母と息子)をしたことが、天神を激怒させ、天神はこの代の人を滅ぼした」

・独龍族…「天神の嘎木が、鬼と人が一緒に住むのは良くないと考え、人もまた殺人、窃盗、誘拐等の悪事を働くようになったため、鬼と人を滅ぼす」

・怒族…「昔、人が増えると同時に鬼も増え、人を食べるようになった。人は平穏な暮らしが出来なくなったため、天神を呪うようになる。天神は大層怒り、鬼怪と共に従順でない人類をも消滅させようと決心する」

・基諾族…「大昔、人、獣、樹、草、水などが、まだ話ができていた頃、互いに助け合わず、罵り、争い合うの

で、神祖の阿莫腰北が万物を新しく造り直した」等。

(ii) 至高神が善良な人間を選択し、善良でない人間を滅ぼすために洪水を起こす。(彝族、仡佬族、等)

・彝族…「乞食を装い天神が食べ物を乞うて家々を訪ねる。三男だけが食べ物を施す…」、「天神が『龍馬の骨と翼が折れた。これを治すには人の血と肉が要る』と言って人を試す。彝族の始祖阿普篤慕だけが自分の血肉を差し出す…」

・仡佬族…「第三曹人の時代、貧しい兄妹の家に老人がやって来て食べ物を乞う。兄妹は雌鶏を殺して与えようとする…」

・佤族…「暮蛙に変身した天神が、一人彼を踏みつぶさなかつた孤児が善良であることが分かったと、小船と雌牛を与えて、洪水を避けるよう言った…」等。

前述の耕地復元モチーフを持つ予告・懲罰型もこの善良な人間を選択する方法の一つであると考えられる。

(彝族、納西族、摩梭人、花苗、川苗、鴉雀苗、藏族、普米族、仡佬族、蒙古族、拉祜族苦聰人、等)

・彝族…「曲布居^{チュブジュ}木の三人の息子が、恩梯古茲^{エンティグツ}の徴税人を殺してしまったことから、恩梯古茲が洪水を起こして地上の人々に懲罰を与えようとする。白髪の老人が開墾した土地を元通りにする。長男、次男は殴ろうとするが、三男はこれを阻止し、理由を聞く。老人は洪水の予告をする」⁽³⁵⁾、「格滋天神が派遣した部下が熊に姿を変え、学博若の五兄弟が耕した土地を元通りにする…末弟が使者を助ける」⁽³⁶⁾」

・納西族…「崇仁麗恩の五兄弟が陽神と陰神のいる所を耕す。陽神が憤り、野猪に耕した地を元通りにさせる。長兄は陽神を、次兄は陰神を打とうとするが、末弟の崇仁麗恩は兄達を阻止する」⁽³⁷⁾」

・納西族摩梭人…「三兄弟が耕した田が、翌日には元通りになつてしまふ。青蛙が元通りにしているのを見つけ、兄達は青蛙を殺そうとするが、末弟は阻止する。青蛙は洪水が起これと予告する」⁽³⁸⁾」

・花苗…兄弟二人が土地を耕すが、翌日には元通りになっている。二人で見張っていると、夜中に老婆が現れ、元通りにしていた。兄は殺そうとするが、弟は理由を聞くと言つて、老婆を助ける。老婆は洪水が起これとを予告する」⁽³⁹⁾」

・川苗…花苗とほぼ同じ⁽⁴⁰⁾
・鴉雀苗…花苗、川苗とほぼ同じ⁽⁴¹⁾

・藏族…「三兄弟が開墾する…真夜中に豚の口をした人身の怪物が土地を元通りにしていた。生け捕りにし、長男、次男は殺そうとするが、三男は阻止する」⁽⁴²⁾」

・普米族…「三兄弟が荒地を開墾するが、翌日には元通りになる。青蛙が白い口髭の老人に変身して洪水の予告をする」⁽⁴³⁾」

・仡佬族…三人の兄弟と妹が荒地の開墾をする…老人が土地を元通りにしていた」⁽⁴⁴⁾」

・蒙古人…「九兄弟が荒地を開墾する…白髪の老婆が土地を元通りにしていた」⁽⁴⁵⁾」

・拉祜族苦聰人…「三兄弟が開墾するが、切り倒した樹が翌日には元通りになる。罌を仕掛けると、大きな青猴が掛かる。長男、次男は殺そうとするが、三男は助ける。青猴は洪水が起これとを告げ、避水法を教える…三男は麻栗樹の蜂桶に乗り、助かる」⁽⁴⁶⁾」等。

(iii) 同胞配偶自体が懲罰の対象となり、洪水の原因となる。

・納西族…「從忍利恩の時代に、利恩の五兄弟と六姉妹

が結婚して天地がけがれた⁽⁴⁷⁾

・ 佞族…「雷神と虹神の兄妹が結婚したことが天神の怒りに触れた⁽⁴⁸⁾」等。

(C) 猿の水撒き

・ 羌族、佞佬族…「猿が馬桑樹に登って天上に行き、天神の金盆を倒すと地上は洪水になった」

・ 苗族…「雨が降らないので、人々は猿を天に派遣した。天公は箒を水甕に浸け、軽く三振りした。猿はこれに満足せず、甕の水を流すと洪水になった⁽⁵¹⁾」

・ 布朗族…「大昔、雨を降らせる天神が水を少ししか撒かない上に、七つの太陽が出たので、地上の万物が死に直面した。人々は白猴王に雨水を管理する天神を探させた。天上では天神が時々水を数滴撒いているだけである。白猴王は怒ってテーブルの上の大甕の水を全部引っくり返し、これが洪水になった⁽⁵²⁾」等。

(D) 龍王の報復

これは(A)の闘争型の変形とも考えられる。

・ 哈尼族…「大きな魚が龍王の子供であるとは知らず、人間が食べてしまった。怒った龍王が報復として、洪水

を起こした⁽⁵³⁾

・ 白族…「龍王が魚の形をした息子を人に釣り上げられたことに怒り、報復として洪水を起こした⁽⁵⁴⁾」等。

(E) 原因不明

単に「洪水が起こって人類が減んだ」として、洪水の原因を重く語らないものもある。

・ 德昂族…「大昔、洪水が起こった。天神が葫蘆の中に少数の人と動物を入れ、葫蘆は漂流する。洪水後、天神が刀で葫蘆を切ると、中から人と動物が出て来た⁽⁵⁵⁾」

・ 布朗族…「大昔、洪水が起こり、万物が溺死したが、兄妹だけが牛の腹の中に隠れて生き残った⁽⁵⁶⁾」等である。

2. 構成要素②洪水の予告と免れる手段の教示

雷公との闘争型の場合の教示者は「雷公」、「雷婆」、「天神」、「太白金星」等である。雷公が兄妹に「洪水が起こったら、葫蘆の種(あるいは雷公の歯)を播き、大きくなたら刈りぬいて、中に入っていると助かる」と教える。避水具は生き残る者にだけ与えられる。

予告・懲罰型の洪水の予告者は「老人」、「老婆」、動物(野猪、熊、青蛙、蝦蟇、青猴、等)の姿に変身した

至高神、あるいはその使者である。被告者は複数で兄弟である。予告者は被告者それぞれに避水手段を教える。予告者を殺そうとした者や殴ろうとした者には、重くて沈んでしまう避水具を造るよう教示する。予告者に対して無礼であった者は溺死し、善良な弟(末弟)は助かる。

また、鳥が洪水の予告をし、避水手段を教えるものもある。

・藏族…「鴉が貧しい老母と息子に『二日後に洪水が起こるから、黄母牛を殺し、皮を剥いで中に隠れていると助かる』と教える」⁽⁵⁷⁾

・僂僂族…「金色の鳥が飛んできて孤児の兄妹二人に『洪水が起こるので葫蘆の中に隠れるように』と告げる」⁽⁵⁸⁾

・納西族…「安米雪山木(花雀の一種)が、路衣衣(次男)に洪水の予告をする」⁽⁵⁹⁾

・土家族…「燕が太白金星の使いで金瓜の種を持ってきて、洪水が起こるので早く種を播くようにと兄妹に告げる」⁽⁶⁰⁾等。

漢族では、亀、石獅子が洪水の予告をし、逃れる手段を教示する話が中原地方一帯に数多く分布する

・河南省西華県…「亀が『地球は一〇万八〇〇〇年に一度、混沌になり水に変わる。私の眼が赤くなったら、私の腹の中に入るように：』と姉弟に告げる。果たしてその通りになり、姉弟だけが生き残る。石磨を転がし神意を問うて結婚する。泥を捏ねて人を造る。泥人のうち雨に打たれた者は不具者になる。弟が『人祖爺』・姉が『人祖奶』になる」⁽⁶¹⁾

・河南省淮陽県…「亀が伏羲に『一〇〇日後に天地が崩れるほどの大災害が起こるので、毎日一つ私に饅頭^{マントウ}を持つてくれば助けてやろう。だが他人には言うな』という。果たしてその通りになり、兄の伏羲と妹の女媧は亀の腹の中に入って生き延びた。洪水後、他の人を探して放浪するが見つからない。石磨を転がし神意を問うて結婚する。泥を捏ねて人を造る。雨に濡れた泥の人が不具者になる」⁽⁶²⁾

・河南省泌陽県…「石獅子が盤古に言う『もうすぐ天地も崩れるほどの大災害が起こる。饅頭を持って来るように。その時が来たら私の腹の中に潜り込んで食べるとよい。私が集めておいてやろう』。果たしてその通りになった。石磨を転がし神意を問うて結婚する。泥人を捏ねる。運びきれずに箒で掃かれた泥人が不具者になる」⁽⁶³⁾

等、多数。

3. 構成要素③避水具

洪水神話の型と避水具には相関関係がみられる。闘争型の場合には、「葫蘆、南瓜、黃瓜、仙瓜、等」の瓜類が圧倒的に多い。瑤族、侗族、水族、毛南族、仡佬族、畚族では雷公の齒を種にする。予告・懲罰型の場合には「箱、櫃、船、鼓、桶、棺、寝台、等」の加工具で、兄の乗った金属（金、銀、銅、錫、鉄、等）製の重いものは沈み、弟（末弟）の乗った木製の軽い物（あるいは葫蘆）は浮かんで助かるという基本構造を持っている。

避水具には生業形態が反映される場合が多い。闘争型の場合もそうであるが、懲罰型でも同様に、例えば、納西族の場合の避水具は「皮鼓」であるが、「細い針に太い糸で縫った牦牛製の皮鼓」は浮かび、「太い針に細い糸で縫った豚製の皮鼓」は沈む⁽⁶⁴⁾。同様に、普米族⁽⁶⁵⁾、蒙古族⁽⁶⁶⁾の場合も「皮袋」で「細い針に太い糸で縫った皮鼓」は浮かび、「太い針に細い糸で縫った皮袋」は沈む。生活に密着した身近にあるものが選ばれる。

また、予告・懲罰型の場合は避水具への携帯物を語る度合いが大きい。鶏卵、種子（穀物の種）、食料（飯、

餅、饅頭^{マントウ}、動物（鶏、馬、牛、豚、山羊、犬猫）、道具（針、鎖、蠟丸、劍、火打ち具）等を持っていく。

漢族では石獅子（石亀、鉄牛）の腹の中が避水具に準ずるものとなり、饅頭を持っていく。布朗族も漢族と同様に動物の腹（牛の腹）が避水具になる⁽⁶⁸⁾。

怒族⁽⁶⁹⁾、独龍族⁽⁷⁰⁾では、避水具には乗らず、直接、山の上に逃れる。

4. 構成要素④生き残った者

雷公との闘争型の場合には、生き残った者は、雷公の闘争相手とその妹⁽⁷¹⁾、あるいは闘争相手の息子と娘（兄妹）、あるいは由来不明の兄妹等である⁽⁷²⁾。

名前のあるもの

・漢族：兄（伏羲）—妹（女媧）、盤古兄妹、兄（胡玉人）—妹（胡玉姐）、弟（亞当）—姉（愛娃）、等
・苗族：兄（德龍）—妹（爸龍）、兄（相西）—妹（相芒）、兄（志男）—妹（志妹）、兄（胡哥）—妹（胡妹）、兄（殷略）—妹（埋耶）、兄（智栗）—妹（易明）、伏羲兄妹、兄（姜央）—妹（娘妮）、姜炎兄妹、昂兄妹、兄（Janie）—妹（O-lai）、兄（Buri）—妹（Kueh）、等

· 瑤族：伏羲兄妹、尼托兄妹、伏羲兄妹、兄(姜良) — 妹(姜妹)、兄(南打) — 妹(曼打)、兄(張良) — 妹(張妹)、等

· 畬族：兄(盤哥) — 妹(雲圖)

· 仡佬族：兄(阿伏) — 妹(阿兮)、阿仰兄妹、兄(阿力) — 妹(達勒)、伏羲兄妹、等

· 壯族：兄(伏依) — 妹(且咪)、伏依兄妹、兄(伏羲) — 妹(女媧)、伏羲兄妹、等

· 布依族：兄(賽胡) — 妹(細妹)、兄(天瑞) — 妹(天婉)、兄(伏羲) — 妹(義妹)、兄(迪進) — 妹(迪穎)、等

· 侗族：兄(丈良) — 妹(丈美)、兄(張良) — 妹(張妹)、兄(姜良) — 妹(姜妹)、等

· 水族：兄(伏羲) — 妹(女媧)、阿強兄妹、等

· 毛南族：兄(盤) — 妹(古)、兄(古) — 妹(盤)、兄(伏羲) — 妹(女媧)、等

· 仡佬族：伏羲兄妹、兄(伏羲) — 妹(女媧)、等

· 獨龍族：兄(阿波) — 妹(阿朋)

· 怒族：兄(蠟普) — 妹(亞姐)

· 基諾族：兄(瑪黑) — 妹(瑪姐)、兄(麻黑) — 妹(麻姐)〔双子の兄妹〕、兄(麦赫) — 妹(麦姐)、等

· 彝族：姊(娥瑪) — 弟(俄瑪)、兄(阿發) — 妹(阿琴)、兄(伏羲) — 妹(義妹)、等

· 僳僳族：兄(列喜列利) — 妹(沙喜沙利)、兄(勒赤勒散) — 妹(双赤双散)、兄(A-hang-p'a) — 妹(A-hang-ma)、等

· 哈尼族：兄(阿摩卓羅) — 妹(阿摩卓索)、兄(佐羅) — 妹(佐卑、兄(莫佐佐龍) — 妹(莫佐佐梭)、兄(者比) — 妹(帕瑪)、兄(者見) — 妹(阿妮)、兄(塔坡) — 妹(木耶)、兄(卓羅) — 妹(卓索)、兄(塔甫) — 妹(睦耶)、兄(塔滢) — 妹(莫依)、兄(其卑) — 妹(里収)、等

· 拉祜族：兄(熱尼搓拉) — 妹(熱娜)、兄(扎底) — 妹(娜底)、兄(扎羅) — 妹(娜羅)、兄(甲底那底) — 妹(比蘇依蘇)、兄(日) — 妹(月)、等

· 拉祜族苦聰人：兄(阿牟撥) — 妹(阿牟瑪)、兄(單梭) — 妹(單羅)、兄(熱尼搓拉) — 妹(熱娜)、等

· 阿昌族：兄(遮帕麻) — 妹(遮麻麻)

· 白族：兄(趙玉配) — 妹(邵三妹)、兄(長命) — 妹(富貴)、兄(阿布帖) — 妹(阿約帖)、兄(阿十弟) — 妹(阿儀娣)、兄(阿卜弟) — 妹(阿儀娣)、兄(双基) — 妹(双撒)、等

· 阿昌族：兄(遮帕麻) — 妹(遮麻麻)

· 白族：兄(趙玉配) — 妹(邵三妹)、兄(長命) — 妹(富貴)、兄(阿布帖) — 妹(阿約帖)、兄(阿十弟) — 妹(阿儀娣)、兄(阿卜弟) — 妹(阿儀娣)、兄(双基) — 妹(双撒)、等

· 基諾族：兄(瑪黑) — 妹(瑪姐)、兄(麻黑) — 妹(麻姐)〔双子の兄妹〕、兄(麦赫) — 妹(麦姐)、等

・土家族…兄（布索）—妹（雍妮）、兄（甫梭）—妹（元妮）、兄（補所）—妹（雍尼）、兄（覃阿士希）—妹（覃阿士負）、伏羲兄妹、饑氏兄妹

・景頗族…弟（格安至開）—姉（新雅南邁）

・佤族…兄（鹿埃姆）—妹（鹿埃松）

・黎族…兄（老先）—妹（荷發）

上述は、兄妹あるいは姉弟の名前が語られるものを大まかに列挙したものであるが、伏羲・女媧、あるいはそれに似た名前であるからといって、名前の上からだけの判断でこの神話の起源を漢族あるいは苗族に求めるのは余りにも早計であろう。なお、土家族の補所—雍尼は土家語で固有名詞ではなく、「補所」は弟、「雍尼」は妹の普通名詞であるという。⁽²³⁾（ここでは、末弟とその妹であるから、二人の関係は兄と妹ということになる。）このような例は他にもあるかも知れない。

数量的には「鬬爭相手の息子と娘」が多い。漢族、藏族、羌族、独龙族、怒族、基諾族、傈僳族、哈尼族、拉祜族、白族、土家族、景頗族等の場合も、生き残った二人（兄妹、姉弟）の由来は明確ではない。

洪水の原因に関わり無く、生き残った者が二人の場合には、兄妹が数量的には多いが、景頗族、羌族、藏族、

漢族等の場合は姉弟もある。

予告・懲罰型の場合には、生き残った者が一人の場合と、二人（末弟と妹）の場合の二通りがある。

一人の場合は天女（仙女）婚に結びつく。

・彝族…「居木家の三男の石奇が一人生き残り、漂流中の蛇、蛙、虫、蜂等を助ける。動物達は天母を刺し『治して欲しければ娘（天女）を石奇と結婚させるように』と天公に言い、天公はやむなく承知する。結婚後、天女は三人の子供を生むが、啞であった。竹の爆裂音に驚いて、彝語、藏語、漢語で発声し、三族の始祖となった⁽²⁴⁾」
「篤慕俄が一人生き残り、三人の天神の娘と結婚する。
一人が各々二人ずつ子供を生み、彝族の六祖（武、乍、糯、（或は尼）、恒、布、默）になる⁽²⁵⁾」

・納西族…「從忍利恩が一人生き残り、天神の娘と結婚するにあたり、天神は難題を出す。森林を切り倒し、焼き払い、種を播き、種を拾い、岩山羊と魚を獲り、虎の乳を搾る…等の難題を天女の助力を得て解決し、結婚する。結婚後、三人の啞の子が生まれる。竹の爆裂音に驚いて藏語、納西語、白語で発声し、それぞれの地方へ

行つて、それぞれの始祖となつた⁽⁷⁶⁾」

・納西族摩梭人・「三兄弟のうちの鏗治路一苴だけが生き残る。天王の三女と結婚するにあたり、天王は難題(納西族の場合とほぼ同じ)を出す⁽⁷⁷⁾」

・普米族・「二兄弟の弟だけが生き残る。仙女と結婚するにあたり、仙女の父親は、柴を刈る、種を播き収獲する、狩猟をする等の難題を出す。仙女の助けを得て、難題を解決する。結婚後、四人の子供を生み、摩梭、普米、藏、漢の四民族になる⁽⁷⁸⁾」等である。

生き残った者が二人の場合、懲罰型では、善良な兄妹(末弟と妹)あるいは姉弟が生き残ることになる。

佤族では「孤児と小さな雌牛が生き残り、結婚して葫蘆の種を生む。結実した葫蘆を刀で切ると中から沢山の人と動物が出てきた⁽⁷⁹⁾」とするが、同胞婚でもなければ天女婚でもない⁽⁸⁰⁾。

また、德昂族では「…洪水が退くと、人が葫蘆から出て来たが、此の時、生き残ったのは男だけで女はいなかった。ある時、天から一人の女が飛んで来て男の食事の世話をしたりしていたが、又、飛んで行った。後に天

神が天女は腰箍を纏わせると飛べなくなると男に教える。人はこうして天女と結婚した⁽⁸¹⁾」という天女婚で腰箍の由来譚であつて、彝語支諸族の天女婚とは別系統のものである。

5. 構成要素⑤同胞婚の忌避

生き残った二人は、「兄妹婚すると雷に打たれて焼け死ぬ⁽⁸²⁾」とか「兄妹が結婚するのは天意に違ふから従えない⁽⁸³⁾」としながらも、結局は人類を後世に伝えるために、結婚することになる。こうした逡巡には近親婚の忌避が意識下にあることが窺える。この同胞配偶忌避の緩和のために行われるのが神占いであり、第三者(亀、竹、金龍神、太白金星、玉皇大帝、観音菩薩、等)の介在である。また、配偶者を求めての放浪の話が亀の甲羅の亀裂、竹の節の由来譚と結合して語られ、この亀と竹の要素は神占いの中にも反映される。

神占いの方法は次の三種に大別される。

- ① ものを投げる(石磨^{ひきうす}、篩と箕、糸と針、刀と鞘、竹片、石、棒、貝殻、葉、帽子、等)
- ② ものをめぐる(廻る中心のあるもの…山、一本の木

等を廻る。廻る中心のないもの…兄が妹を追いかける)

③ 煙の結合(煙、木の枝、髪の毛、帯、木、蔓、二本の川の水、等が交わる)

④ ⑤ ⑥ は男性・女性原理の象徴物——例えば碾臼の上下、糸と針、男女各々があげた煙、等——の結合により結婚の許可を暗示したものと解される。

この他に、独龍族の「竹筒の水が九本の川に変わる」⁽⁸³⁾、怒族の「弩弓で織機の枠の杵を射る」⁽⁸⁴⁾などもあるが、いずれも生活様式、生業形態を反映するものであろう。また、景頗族の「姉弟が二つの山の上から同時に転がり、麓まで一緒に転がった」等は、④の石磨転がしの変形とみてよいであろう。

貴州省從江県加勉郷の苗族では「向かい合って、妹は下から上へ、兄は上から下へ歩き、出逢ったとき、いとこ」と言って結婚する⁽⁸⁵⁾。

貴州省黄平県に苗族と隣接して居住する偉家人の「兄妹が各々傘をさし一人は山から下りてきて、一人は麓から登って行き、中腹で出逢って、二人が二か所から来た」とい⁽⁸⁶⁾として結婚する⁽⁸⁷⁾というのも、一種の兄妹婚の回避と考えられる。

総じて、石磨による占いが数量的に最も多く、次に多

いのが針孔に糸を通す占いである。瑤族では煙系統が多く、目立つ。

6. 構成要素⑥同胞婚の結果

同胞婚の結果誕生したものは、肉塊の類(血団、肉胞胎、肉瘤、肉球、血盆)、瓜類(葫蘆、瓜、南瓜、冬瓜)、不具者の類(目も耳も口もない磨石の様な子、手足はあるが男女の別が不明の怪人、鶏卵の様な円い子、無頭の子、瓜のように四肢のない子)等、異形のものである。

景頗族⁽⁸⁸⁾、白族⁽⁸⁹⁾では「犬の皮袋」の中から子供が出てくる。哈尼族には「全身に身籠り、長男の哈尼族は腹部から、次男の彝族は腰から、三男の漢族は手の指から、四男の傣族は足の裏から、瑤族は耳の裏から生まれた」⁽⁹⁰⁾と語るものもある。

また葫蘆の中から各民族が出てくるとするものもある。

(哈尼族、阿昌族、彝族、傈僳族、布朗族、基諾族、克木人、拉祜族苦聰人、等)

・哈尼族…「兄妹が結婚して葫蘆を生む。竹刀で穴を開けると組になった小さな男女が出てくる。一組目は卡多人、二組目は布都人、三組目は碧約人、四組目は西摩洛人になる」⁽⁹¹⁾、「切り刻んで山の谷間に捨てた肉塊の一つが

葫蘆の樹になり、大きな実を結ぶ。葫蘆の中から声が出るので刀で切り裂くと、中から人が出てきて、哈尼族、彝族、傣族、瑤族、佤族、白族等になった⁽⁹²⁾」

・阿昌族…「遮帕麻と遮咪麻が結婚して葫蘆を生む。妹は葫蘆を川に捨てて。天神が錐で穴を開けると中から九族が出てくる。盆地に住んだものが漢族、傣族、高山に住んだものが景頗族、僳僳族、山の中腹に住んだものが阿昌族、德昂族…になる⁽⁹³⁾」

・彝族…「兄妹が結婚して葫蘆を生む。妹は葫蘆を川に捨てて。天神が錐で穴を開けると、中から九族(漢、傣、僳、僳、苗、藏、白、回、傣(重複するがママ)族)が出てくる⁽⁹⁴⁾」「兄妹が結婚して大葫蘆を生む。宝刀で切ると中から沢山の人、動植物、五穀の種が出てくる。種を四方に撒くと、彝族、漢族、苗族、沙族に変わる⁽⁹⁵⁾」

・彝族阿細人…「妹が生んだ南瓜の中から声がするので、兄が斧で切ると中には漢人、阿細人、苗人がいた⁽⁹⁶⁾」

・僳僳族…「瓜を刀で切ると、中から鬼と、怒族、独龙族、僳僳族、納西族、白族、彝族…が出て来た⁽⁹⁷⁾」

・布朗族…「兄妹が結婚して一個の葫蘆を生む。切り開くと中から沢山の人が出てきて、各民族の祖先になる⁽⁹⁸⁾」
・基諾族…「瑪黑と瑪姐の兄妹が結婚する。葫蘆の種を

播くと大きな葫蘆になり、中から声がする。真つ赤に焼いた小刀で焼き穴を開けると、中から人が出てきて、布朗族、基諾族、傣族になる⁽⁹⁹⁾」

・克木人(モン・クメール語族 佤德昂語支)…「兄妹が結婚してから三年余り後、大きな葫蘆を生む。葫蘆の中から声がするので、焼いた先の尖った棒で穴を開けると、中から克木人がでてきた⁽¹⁰⁰⁾」等。

拉祜族苦聰人の場合は同胞婚ではないが「末弟が仙女と結婚し、葫蘆が生れた。大刀で切ると中から男女が出てくる。麓に住んだものが漢族、山頂に住んだものが彝族、鍋搓(苦聰人)になる⁽¹⁰¹⁾」として葫蘆の中から各民族が出て来たと語る。

7. 構成要素⑦切り刻むモチーフ

誕生したものが異形の場合には、切り刻むモチーフが付加される。肉塊、不具児等、異形さの度合いが強いものは、特に切り刻むモチーフが強調され、⑥⑦の結合度が強い。

・景頗族…「人と鬼の住む分界の九叉路で治同(善鬼)が姉弟婚によって生まれた子供の全身を刀で九つに切り、

九本の交差点の入り口に投げ捨てると九組の兄妹になっていた。この九組の兄妹が九つの地方に行つて九種の民族になった。盆地に住んだものが漢族、水辺に住んだものが僚族、山の上に住んだものが徳昂と石東（景頗は自称）である」として、特に異形さが強調されない人も切り分けられる例もあり、民族起源の説明に繋がっていく。

通常、生業形態において、農耕民的要素が強いほど切り刻むモチーフが付加され強調され、狩猟、遊牧民的要素が強まるほど切り刻む要素が弱められる。農牧民である藏族では「姉弟婚の結果、姉が一本の粗くて長い麻繩を生む。弟が怒つて、刀で一節ずつに切り、四方八方に投げ捨てると、翌日には全部人になる。二節で一組になり、藏族の祖先となる」、⁽¹⁰⁾「姉弟婚の結果、姉が腸を産む。天皇帝が刀で腸を切り刻み四方に撒く。天皇帝が百家姓を造る」、⁽¹¹⁾「兄妹婚の結果、肉塊を生む。兄が刀で切ると中から皮繩が出てくる。皮繩を切つてあちこちにばら撒くと人になる」とあり、生業形態を反映した切り刻むモチーフになっている。

8. 構成要素⑧人類起源

誕生したものが異形のものである場合には、構成要素

の⑥（同胞婚の結果）⑦（切り刻むモチーフ）⑧（人類起源）が一つのまとまりを持つて語られる。⑥を切り刻むとその肉片が人になり、各部分が人類（当該諸民族）の祖先に変わり、兄妹（姉弟）を始祖とする人類（あるいは民族）起源神話が説かれる。ばら撒かれた肉片が李の上に掛かったものを「李」姓、桃の木の上に掛かったものを「陶」姓、石の上に落ちたものを「石」姓……とするといったように、「百家姓」の由来の説明になる場合も多い。民族起源の神話には周辺民族との関わりが語られ、そこに挙げられる諸民族が交流のある民族であることは間違いない。民族名を挙げられている側からも同様の話が伝わっている可能性が大いに考えられる。兄弟関係の順序から、民族間の優位順序が推測できるかも知れない。但し、長子相続制か末子相続制かは考慮する必要がある。

天女婚に結びつく場合は、基本的には当然のことながら構成要素⑤⑥⑦は欠如し、④⑧が直接結合して主として民族起源神話が語られる。

しかし、拉祜族苦聰人の「末弟と仙女が結婚して葫蘆を生む。刀で切り開くと、子供が沢山出てくる」とか、双柏県の彝族の「阿朴独姆と妹の兄妹婚の結果生まれた

ものは、三六人の啞の子で、火の中に入れた竹の炸裂音を聞きそれぞれの言語で発声し、彝族、哈尼族、漢族、傣族になった⁽¹⁰⁾とか、昭通永善県彝族の「伏羲兄妹が結婚して三人の啞の子を生む。山竹を燃やして赤ん坊を温めると発声し、彝族、苗族、漢族になった⁽¹⁰⁾」等のように、天女婚と兄妹婚の構成要素が錯綜し、複雑に絡み合って語られるものも数量的には多くはないが存在する。これらは、モザイク状に点在する少数民族が近隣民族間との交流により影響を及ぼしあつた必然の結果であらう。

そうしてこのモチーフの複雑な結合の仕方は諸要素の結合の仕方をもますます複雑にしていく。伝承による細部の変化は致し方ないが、何が共通項で何が基本になつていて原型は何かを考える上で、やはり資料の数量的な多さからの類推・分析は原型復元の一つの有効な方法になり得るであらう。

三

文化圏と言語体系から中国の洪水神話についてまとめると次のようになる。

まず文化圏からまとめると以下の通りである。Ⅰ(北部遊牧民文化圏)では、殆どといっていいほど洪水神話

はみられない。Ⅳ(南部山地焼畑耕作民文化圏)やⅤ(南部河谷居住水稻犁耕民文化圏)では、主として同胞配偶型洪水神話が数多く、Ⅲ(南部山地居住農牧民文化圏)では、同胞配偶型とともに天女婚型の洪水神話が多くみられる。Ⅱ(西部中部高原農牧民文化圏)では、ⅢⅣとの共通要素を保持した同胞配偶型、天女婚型の洪水神話がみられる。また、Ⅵ(南部狩猟栽培民文化圏)では、洪水神話と同胞配偶の結合度が弱い。Ⅶ(東部平原農耕民文化圏)では、陥没型洪水神話とも称される石獅子や石亀が洪水の予告者となる同胞配偶型洪水神話が中原地方で多くみられる。

次に言語体系からまとめると、基本的には、鬬争型洪水神話は、主として漢藏語族の苗瑤語族(苗族、瑤族、畲族)と壮侗語族(壮族、侗族、水族、布依族、毛南族、仫佬族)、漢語を話す土家族等の間に広く分布し、兄妹婚に結びつく。傣族では雷公との鬬争モチーフは見られず、「洪水の中を金葫蘆が漂流し、石にぶつかり裂け、中から出て来た兄妹が結婚して子孫を繁栄させた⁽¹⁰⁾」と語られるだけである。この神話はむしろ南アジア語系の「葫蘆から人が出て来た」とする神話に近い。

他方、予告・懲罰型洪水神話は、大・小涼山を中心と

する彝族及びその影響を受ける彝語支諸族並びにその近隣民族の間に分布し、生き残った者が一人の場合には天女婚に、二人の場合には同胞配偶婚に結びつくという構造をとる。同胞配偶の場合、その内容及び構成は鬭争型との差異はほとんどないと言ってよい。しいて言えば⑥⑦の結合度が鬭争型よりも弱い。

なお、耕地復元モチーフを持つ予告・懲罰型の洪水神話を伝える苗族について、言語と地理的分布から考えてみる。苗語は、湘西方言（東部方言）、黔东南方言（中部方言）、川黔滇方言（西部方言）の三方言区に分けられるが、田兵によると、『貴州通志』の苗族五種は、1. 紅苗（湘西方言）、2. 黑苗（黔东南方言）、3. 青苗（川黔滇方言）、4. 白苗（黔东南方言あるいは川黔滇方言）5. 花苗（川黔滇方言）である^⑩という。また、吳澤霖によれば、「貴州の苗族の族は三つの大系に分けることができる、地理的分布からみると東部は大多数が苗、南部及び西南部は大多数が仲家〔布依族〕、西北部威寧一帯は大多数が倮倮〔彝族〕である^⑪」という。以上のことから類推するに、川苗、花苗等は、苗族とは称するものの、実は彝族であるか、彝語を話す苗族であるか、彝族の支配下にあった民族であった可能性が大である。これらの

ことから、耕地復元モチーフは、そもそもは彝族（黒彝系統）の持つモチーフと考えてもいいのではないか。

また、南アジア語系モン・クメール語族の佤族、德昂族、布朗族では、基本的には漢蔵語族の諸族とは別系統の「葫蘆あるいは石洞から人類が出て来た」とする人類起源神話と結びつく洪水神話である。佤族では「洪水滔天の時、遠方から大きな葫蘆が漂流してきた。後に葫蘆の中から人が出て来た」、「洪水滔天の時、遠方から大きな葫蘆が漂ってきた。葫蘆が水中に沈み、その後、山洞の中から人が出て来た^⑫」とあり、德昂族でも同様である。さらに、漢族にも中原周辺の四川、湖北、湖南、江西省等では、少数民族間に伝わる鬭争型、懲罰型等、洪水の原因を重く語る同様の同胞配偶型の洪水神話が伝えられていることを付け加えておく。

中国の洪水神話における兄妹婚神話は、巨視的にみれば、西はインドから東アジア一帯に分布する「同胞配偶型洪水神話」の一つに位置付けられる。しかし、中国の洪水神話には、兄妹婚神話だけでなく、天女婚神話と結びつくものや、モン・クメール語族等に伝わる「葫蘆（あるいは石洞）の中から人が出て来た」とする人類起源神話と結びつく洪水神話もあり、上述の様な構造で成

り立っている。

註

- (1) · Frazer, J. G. *Folklore in The Old Testament*. Macmillan, 1923.
[江河徹等訳『旧約聖書のフォークロア』太陽社、一九七五年一〇月]。
[星野徹『洪水伝説』国文社、一九七三年八月]。
・篠田知和基・丸山顯徳編『世界の洪水神話—海に浮かぶ文明』、勉誠出版、二〇〇五年一月。
- (2) 芮逸夫「苗族的洪水故事与伏羲女娲的伝説」『人類学集刊』第一卷第一期、国立中央研究院歴史語言研究所、一九三八年十二月、台北、一五五—二〇三頁。
- (3) 聞一多「伏羲考」『神話与詩』、古籍出版社、一九五六年六月、北京(開明書店、一九四八年、上海)。
- (4) 李卉「台湾及東南亞的同胞配偶型洪水伝説」『中国民族学報』第一期、一九五五年八月、台北、一七一—二〇六頁。
- (5) Walk, L. Das Flut-Geschwisterpaar als Ur- und Stammernpaar der Menschheit. Ein Beitrag zur Mythengeschichte Süd- und Südasiens. *Mitteilungen der Anthropologischen Gesellschaft in Wien*, 1949, pp. 60-115.
- (6) 村上順子「西南中国の少数民族にみられる洪水神話—ミャオ・ヤオ族、イ語系諸族を中心にして—」『東アジアの古代文化』別冊、大和書房、一九七五年十一月、一七九—一八八頁。
- (7) 村松一弥「現代中国諸民族考序説—民間文学研究のための—」『東京都立大学「人文学報」第三六号、一九六三年八月、二二—三六頁。
- (8) Clarke, S. R. *Among the Tribes in South-West China*. Cheng Wen Publishing Company, 1970, Taipei, pp. 43-44.
- (9) 「洪水滔天歌」『中国少数民族神話匯編・洪水篇』中央民族学院少数民族古籍整理出版、一九八四年、三六—四五頁。
- (10) 「洪水滔天歌」『民間文学』一九六〇年第一期、二六—四〇頁。
- (11) 「伏羲兄妹的故事」『瑤族民間故事選』上海文芸出版社、一九八〇年一〇月、一九—二四頁。
- (12) 「盤石郎」『畬族民間故事選』上海文芸出版社、一九九三年八月、九〇—九三頁。
- (13) 「盤古的伝説」『毛南族・京族民間故事選』上海文芸出版社、一九八七年三月、三—九頁。
- (14) 「人龍雷虎爭天下」『中国各民族宗教与神話大詞典』学苑出版社、一九九〇年一〇月、五五六頁。
- (15) 「丈良丈美接人種」(林河「儼史」) 東大圖書公司、一九九四年九月、台北、三九—四一頁。
- (16) 「布伯」『民間文学』一九五九年第八期、六一—八二頁。
- (17) 「賽胡細妹造人煙」『民間文学』一九八〇年第八期、六五—七五頁。
- (18) 「水淹天門歌」『中国歌謡集成』(広西卷)、中国社会科学出版社、一九九二年七月、一一八—一二〇頁。
- (19) 「齐天大水」谷德明編『中国少数民族神話』中国民間

文艺出版社、一九八七年二月、二六八—二七〇頁。

- (20) 「祖先の来歴」『民間文学』一九八四年第二期、一二—一三頁。

- (21) 「木棉沙烏沙漆」『中国各民族宗教与大词典』学苑出版社、一九九〇年一〇月、三六二頁。

- (22) 「螃蟹精」『黎族民間故事選』上海文艺出版社、一九八三年三月、三一—三五頁。

- (23) 「洪水滔天歌」『雲南彝族歌謡集成』雲南民族出版社、一九八六年九月、六頁。

- (24) 「尼蘇奪節」(彝族創世史詩) 雲南民族出版社、一九八五年二月、六一—一二頁。

- (25) 「梅葛」(彝族民間史詩) 雲南人民出版社、一九八七年一〇月、二三頁。

- (26) 「兄妹仨人種」『山茶』一九八三年第四期、三一—四頁。

- (27) 「葫蘆人」(岩峰、王松、刀保堯『傣族文学史』) 雲南民族出版社、一九九五年一〇月、八六頁。

- (28) 「洪水氾濫」(怒族独龍族民間故事選) 上海文艺出版社、一九九四年一月、一三二—一三六頁。

- (29) 「創世記」(怒族独龍族民間故事選) 上海文艺出版社、一九九四年一月、六頁。

- (30) 「基諾族的大草房」『山茶』一九九三年第二期、五九—六〇頁。

- (31) 「葫蘆里出来人」『山茶』一九八六年第四期、一四—一八頁。

- (32) 「洪水氾濫」『洪水氾濫』雲南民族出版社、一九八七年四月、一一—二六頁。

中国の洪水神話における兄妹婚神話の位置付けと構造分析

- (33) 「人皇制人」『中国少数民族神話選編・人類起源篇』中央民族学院少数民族古籍整理出版、一九八四年、二三—三三—三五頁。

- (34) 「論佤族神話——兼論話形態神話的特徵」(李子賢「探尋一個尚未崩潰的神話王國」) 雲南人民出版社、一九九一年三月、一九—三頁。

- (35) 「洪水滔天」『中国各民族宗教与神話大词典』学苑出版社、一九九〇年一〇月、六七—八頁。

- (36) 「人類起源」『梅葛』、雲南人民出版社、一九八七年一〇月、三三—三六頁。

- (37) 「崇邦統」(人類遷徙記)『中国原始宗教資料叢篇』、上海人民出版社、一九九三年一〇月、三三〇—三三三頁。

- (38) 「鏗治路一草——摩梭人的洪水故事」『山茶』一九八二年第三期、一九—二四頁。

- (39) Clarke, S. R., *Among The Tribes in South-West China*, Cheng Wen Publishing Company, 1970, Taipei, pp. 50-55.

- (40) Graham, D. C., *The Legends of the Chuan Miao, Journal of the West China Border Research Society*, Vol. 10, 1938, pp. 20-21. (J. W. C. B. R. S. 略す)

- Graham, D. C., *The Customs of the Chuan Miao*, J. W. C. B. R. S., Vol. 9, 1937, p. 56.

- (41) 管東貴「川南鴉雀苗的神話与伝説」『中央研究院歷史語言研究所集刊』第四五本 第三分、一九七四年、四四〇—四四二頁。

- (42) 「洪水滔天」『中国各民族宗教与神話大词典』学苑出版

社、一九九〇年一〇月、七四九頁。

- (43) 「帕米查列」『普米族民間故事』雲南人民出版社、一九九〇年七月、一二—一五頁。

- (44) 「伏羲娣妹制人煙」『中國少數民族神話滙編・洪水篇』中央民族學院少數民族古籍整理出版、一九八四年、三一—一三七頁。

- (45) 「九兄弟」『中國民間故事集成』四川卷、中國 ISBN 中心出版、一九九八年三月、一四七九—一四八一頁。

- (46) 「蜂桶、葫蘆伝人種」『拉祜族民間故事』雲南人民出版社、一九九〇年七月、一六—一七頁。

- (47) 「人類遷徙記」『納西族民間故事選』上海文芸出版社、一九八四年一〇月、五二頁。

- (48) 「司崗里」『山茶』一九八八年第一期、一六頁。

- (49) 「黃水潮天」(毛星編『中國少數民族文學』上) 湖南人民出版社、一九八三年七月、五五五頁。

- (50) 「伏羲兄妹制人煙」『中國少數民族神話滙編・洪水篇』中央民族學院少數民族古籍整理出版、一九八四年、三一—四頁。

- (51) 「胡哥胡妹伝人種」『雲南少數民族歷史社會調查資料滙編』(一)、雲南人民出版社、一九八六年二月、二五〇—二五二頁。

- (52) 「兄妹成婚衍人類」『中國民間故事集成』雲南卷、中國 ISBN 中心出版、二〇〇三年五月、二〇六—二〇七頁。

- (53) 「祭龍的來歷」『山茶』一九八四年第四期、九三—九五頁。

- (54) 「開天闢地」『白族神話伝説集成』中國民間文芸出版社、

一九八六年一月、一三一—一八頁。

- (55) 「開天闢地的伝説」『山茶』一九八四年第四期、一四—一六頁。

- (56) 「葫蘆的故事」(一)『山茶』一九八一年第二期、四三—四四頁。

- (57) 「岩布林嘎・伊梯林嘎」『中國各民族宗教与神話大詞典』學苑出版社、一九九〇年一〇月、三一頁。

- (58) 「天女凡伝人種」『四川神話選』四川民族出版社、一九九二年九月、一二五頁。

- (59) 「天、地、人的形成」『山茶』一九八一年第二期、一〇—一四頁。

- (60) 「創世紀」『四川省納西族社會歷史調查』四川省社會科學出版社、一九八七年六月、二一五—二一九頁。

- (61) 「布索和雍妮」『土家族民間故事選』上海文芸出版社、一九八九年九月、四頁。

- (62) 「人祖爺」(張振犁、程健君編『中原神話專題資料』) 中國民間文藝家協會河南分會、一九八七年、一三四—一三七頁。

- (63) 「伏羲和女媧」『前揭書』(61)、九七—一〇一頁。

- (64) 「盤古兄妹婚」『前揭書』(61)、二九—三〇頁。

- (65) 「崇邦統」『中國原始宗教資料叢編』上海人民出版社、一九九三年一〇月、三三三頁。

- (66) 「帕米查列」『普米族民間故事』雲南人民出版社、一九九〇年七月、一三頁。

- (67) 「九兄弟」『中國民間故事集成』四川卷、中國 ISBN 中心出版、一九九八年三月、一四七—九頁。

(67) a. 石獅子・「盤古開天」『民間文学』一九八六年第一期、九—一頁、「兩兄弟」『中原資料專題資料』

一九八七年、一二七—一三〇頁、「捏泥人」『前掲書』一四一—一四三頁。

b. 石龜・「姊妹婚」『中國民間故事集成』河南卷、中國ISBN中心出版、二〇〇一年六月、一三頁。

c. 鉄牛・「洪水滔天」『中原神話專題資料』、一六一—一六二頁、「兩兄妹」『前掲書』、一六三頁、等多數。

(68) 「岩布林嘎・伊梯林嘎」『中國各民族宗教与神話大詞典』、学苑出版社、一九九〇年一〇月、三一頁。

(69) 「創世記」『怒族独龙族民間故事選』上海文艺出版社、

一九九四年一月、六一—七頁。

(70) 「洪水氾濫」『怒族独龙族民間故事選』上海文艺出版社、一九九四年一月、一三三頁。

(71) 「洪水滔天」『苗族史詩』中國民間文艺出版社、一九八三年一月、二四六—二五二頁。

(72) 芮逸夫「苗族的洪水故事与伏羲女媧的伝説」『人類学集刊』第一卷第一期、国立中央研究院歷史語言研究所、一九三八年二月、台北、一五七頁。

凌純声、芮逸夫「湘西苗族調查報告」国立中央研究院歷史語言研究所、单刊、甲種之一八、商務印書館、一九四七年、上海、二四四—二四六頁。

(73) 「繁衍人類」『中国少数民族神話匯編・洪水篇』中央民族学院少数民族古籍整理出版、一九八四年、一三九頁。

(74) 馬学良編著『彝族文化史』上海人民出版社、一九八九

年二月、二二—二三頁。

「天上神人和地上神人」『山茶』一九八四年第三期、二〇—二五頁。

(75) 康健、王治新、何積全（整理）、王子堯（翻譯）『洪水紀（彝族史詩）』貴州民族出版社、一九八七年七月、六一—二〇頁。

(76) 「創世記」雲南人民出版社、一九七八年一〇月、三四—九四頁。

「人類遷徙記」『民間文学』一九五六年第七期、一三—二三頁。

(77) 「鏗治路一草——摩梭人的洪水故事」『山茶』一九八二年第三期、二—二四頁。

(78) 「寧浪永寧区托甸鄉普米族社会歷史綜合調查報告」『基諾族普米族社会歷史綜合調查』民族出版社、一九九〇年二月、一八四頁。

(79) 「青蛙大王与母牛」『佤族民間故事選』上海文艺出版社、一九八九年四月、二七—三〇頁。

(80) 「葫蘆伝人種」『中國民間故事集成』雲南卷、中國ISBN中心出版、二〇〇三年五月、二〇八—二〇九頁。

(81) 「洪水滔天」『苗族民間故事選』人民文学出版社、一九六二年九月、六頁。

「人類来源的伝説」『黎族社会歷史調查』民族出版社、一九八六年六月、九八頁。

中国の洪水神話における兄妹婚神話の位置付けと構造分析

馬昌儀『中国神話故事』中国廣播電視出版社、一九九六年九月、一五三一—一五四頁。

(83) 彭義良『創世紀』『民族文化』一九八七年第一期、五八一—六〇頁。

(84) 「蠟普和亞姐」『山茶』一九八三年第三期、一七頁。

(85) 「人種流傳」『景頗族民間故事選』上海文芸出版社、二二頁。

(86) 「族源的傳說」『苗族社會歷史調查』(二) 貴州民族出版社、一九八七年二期、五四—五六頁。

(87) 「祖先的來歷」『民間文學』一九八四年第二期、一二—一三頁。

(88) 「開天闢地」李子賢『雲南少數民族神話選』雲南人民出版社、一九九〇年七月、三七七頁。

(89) 「開天闢地」『白族神話傳說集成』中國民間文芸出版社、一九八九年一月、一七頁。

(90) 「兄妹人種」『山茶』一九八三年第四期、四頁。

(91) 「兄妹人種」『哈尼族民間故事選』上海文芸出版社、一九八九年四月、一六一—一八頁。

(92) 「兄妹人種·異文」『中國民間故事集成』雲南卷、中國ISBN中心出版、二〇〇三年五月、一六八—一六九頁。

(93) 「九種蠻夷本是一家人」『中國民間故事集成』雲南卷、中國ISBN中心出版、二〇〇三年五月、一八四頁。

(94) 「梅葛」雲南人民出版社、一九七八年一〇月、四三一—四六頁。

(95) 「洪水漫天下(彝族支系) 阿哲人」『雲南少數民族歷史社會調查資料匯編』(一一)、一九八六年二月、二四五

—二四六頁。

(96) 袁家驊「阿細民歌及其言語」中国科学院語言研究所編集『語言學專刊·第五種』中国科學出版社、一九五三年六月、一〇四—一〇六頁。

(97) 「洪水」谷德明編『中国少數民族神話』中国民間文學出版社、一九八七年一月、三六〇頁。

(98) 「岩布林嘎·伊梯林嘎」『中国各民族宗教与神話大詞典』学苑出版社、一九九〇年一〇月、三二頁。

(99) 「瑪黑、瑪姐和葫蘆里的人」『民間文學』一九八一年第一期、四—五頁。

(100) 「關於克木圖騰姓氏及傳說調查」『山茶』一九三三年第一期、五三—五四頁。

(101) 「蜂桶、葫蘆人種」『拉祜族民間故事』雲南人民出版社、一九九〇年七月、一八一—一九頁。

(102) 「人種流傳」『景頗族民間故事選』上海文芸出版社、一九九一年四月、二二—二五頁。

(103) 「洪水故事」(一)『中国少數民族神話匯編·洪水篇』中央民族學院少數民族古籍整理出版、一九八四年、二頁。

(104) 「洪水故事」(二)『中国少數民族神話匯編·洪水篇』中央民族學院少數民族古籍整理出版、一九八四年、三頁。

(105) 「皮繩造人」『中國民間故事集成』四川卷、中國ISBN中心出版、一九九八年三月、九三八頁。

(106) 「蜂桶、葫蘆人種」『拉祜族民間故事』雲南人民出版社、一九九〇年七月、一八一—一九頁。

(107) 「民族的來源」『查姆』雲南人民出版社、一九八一年二月、七三—七五頁。

(108) 「伏羲兄妹伝人種」(彝族支系白彝人)『雲南少数民族社会歴史調査資料匯編』(二)、雲南人民出版社、一九八六年二月、二四七—二四八頁。

(109) 「葫蘆人」(岩峰、王松、刀保堯著「傣族文学史」)雲南民族出版社、一九九五年一〇月、八六—八七頁。

(110) 田兵「苗族名称与今天苗族」『南風』第三期、一九九二年六月、七三頁。

(111) 吳澤林「苗族中祖先來歴の伝説」(馬昌儀編『中国神話学文論選萃』中国廣播電視出版社)、一九九四年二月、四三二頁。

(112) 「洪水滔天」『中国各民族宗教与神話大詞典』学苑出版社、一九九〇年一〇月、五九一頁。

(113) 「伏羲兄妹制人煙」『民間文学』一九六四年第三期、四九—五一頁。

「伏羲和女媧」『中国民間故事集成』四川卷、中国ISBN中心出版、一九九八年三月、五一—五二頁。

(114) 楊利慧『女媧的神話与信仰』中国社会科学出版社、一九九七年二月、四一—四二頁。

(115) 「伏羲和女媧的故事」『民間文学』一九八六年第一期、一一—一四頁。

(116) 「洪水的伝説」(陶陽・鍾秀編『中国神話』、上海文芸出版社、一九九〇年、一八一—一八三頁。

【附記】

本稿は二〇一〇年八月に雲南で開催された「兄妹婚神話」のシンポジウムで発表したものを論文に纏め、井上

(村上)順子「兄妹婚神話在中国洪水神話中的定位及其結構分析」(『形態・語境・視野——兄妹婚神話与信仰民俗暨雲南省開遠市彝族人祖廟考察与研究国際學術研討会論文集』雲南大学出版社、二〇一一年二月)として掲載されたものに、加筆・修正したものである。(二〇一五年一月二五日、記)